

# 夜間学校 ニュース

1987年4月28日  
西成区萩之茶屋2-8-9  
旅路の里気付  
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の  
指紋押なつ拒否断固支持！  
定住外国人に市民権を！

みんなの 会館

みんなで作ろう

釜ヶ崎夜間学校

毎週金曜日  
夜七時より  
市民館三階

知恵 何とかの 三人よれば

## 仲間の死をめぐって

### 仲間とは……

夜間学校ニュースは、随分と長期に渡って、「仲間の死」を連載している。

官報に掲載されたものばかりだから、ドヤヤ路上、風呂屋で死んだ身元不明の仲間の死の紹介にとどまっていたのだが、本当をいえば、現場で死んだ仲間の死も、新聞など知りえるかぎり、夜間学校ニュースで

したほうがいいのだが、な

しえずにいる。ところで、これまで紹介した「仲間の死」の中には、韓国人も含まれていた。在日韓国人、朝鮮人も、釜ヶ崎で日雇いをし、死んでいくものも多し。ことは、みんなも知っていることだから、「仲間の死」に、韓国人の名前が登場しても、別

に不気味とは思わなかった

だろう。裏面の新聞記事を読んで

もらいた。韓国人が、土木現場で死

んでいる。

この死を、「仲間の死」として紹介することに、異議をとなえる仲間は、いる

だろうか。釜ヶ崎には、これまで

今も、日本中から働きにきている。その中には、仕送りしている出稼ぎの仲間

もいるだろう。釜ヶ崎は、今まで、古い

新しいで、多少の格付け

### 仲間の死

本籍、住所不詳、氏名自

称中山始、年齢35歳の男、

身長170センチ、中肉、左

るぶくに青色で「ス×ス」

と入墨、左右小指欠損、覚

醒剤注射痕有、着衣白Tシ

ヤツ、白長袖ジャンパー、

白綿パン、白と青の靴下、

白運動靴、遺留金品現金55

円、小銭入れ、電話帳

右の者は、昭和61年8月

1日午前9時30分ごろ、西

成区太子1-9-1高砂旅

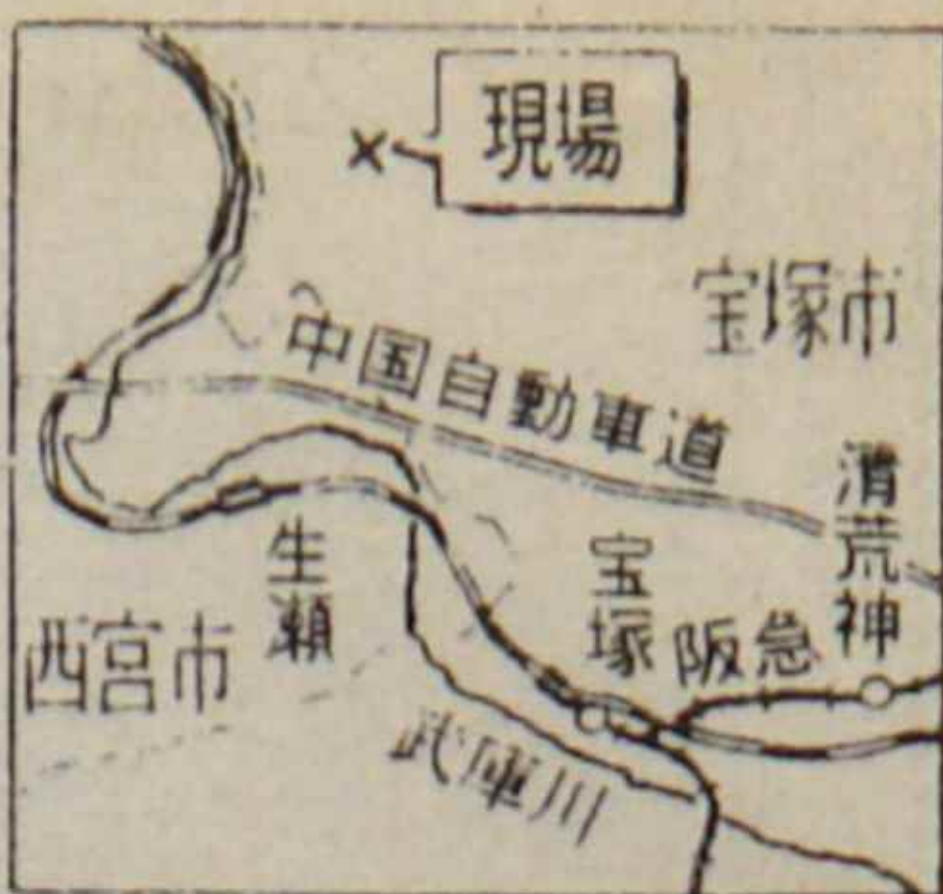
館一階ポタンの間に発見

されたもので、同日午前一時(推定)同所において死

# 雨水管工事で土砂崩れ

# 作業員2人が圧死

宝塚市営場  
火葬場



山、市営火葬場内の雨水排水管理工事現場の溝（長さ約八尺、幅一・八尺、深さ三尺）で、側壁の上砂が長さ五尺にわたって約十五立方尺崩れ、中で作業していた同県尼崎市武庫豊町三、上建業、徳山組の作業員金栄出さん（五九）（同市南武庫之荘一〇の二）、関内宇さん（四三）（同市大庄中通四の二）の二人が生き埋めになった。

直撃したという。側壁は矢板を打つなど土止めをしておらず、同署は安全管理に手落ちがなかったか、関係者から事情を聞いています。工事は約四か月かけて雨水用の排水管を約二百尺にわたって埋設するもので、三月三日から着工。すでに約八割が終わっている。宝塚市武庫川町一の上建業市橋組、市橋貞社長（五八）が受注し、徳山組に下請けさせていた。関さんは韓国・慶尚南道蔚山出身。先月八日に観光ビザで来日、十一日から同工事現場で働き始めたばかりだった。現場はJR生瀬駅の北東約一・五キロ。

▲1989年4月22日読売新聞  
▲1989年4月21日毎日新聞(夕刊)

ないし考える。もっそも、言葉はできるだけ買えてもらいたいものだ。

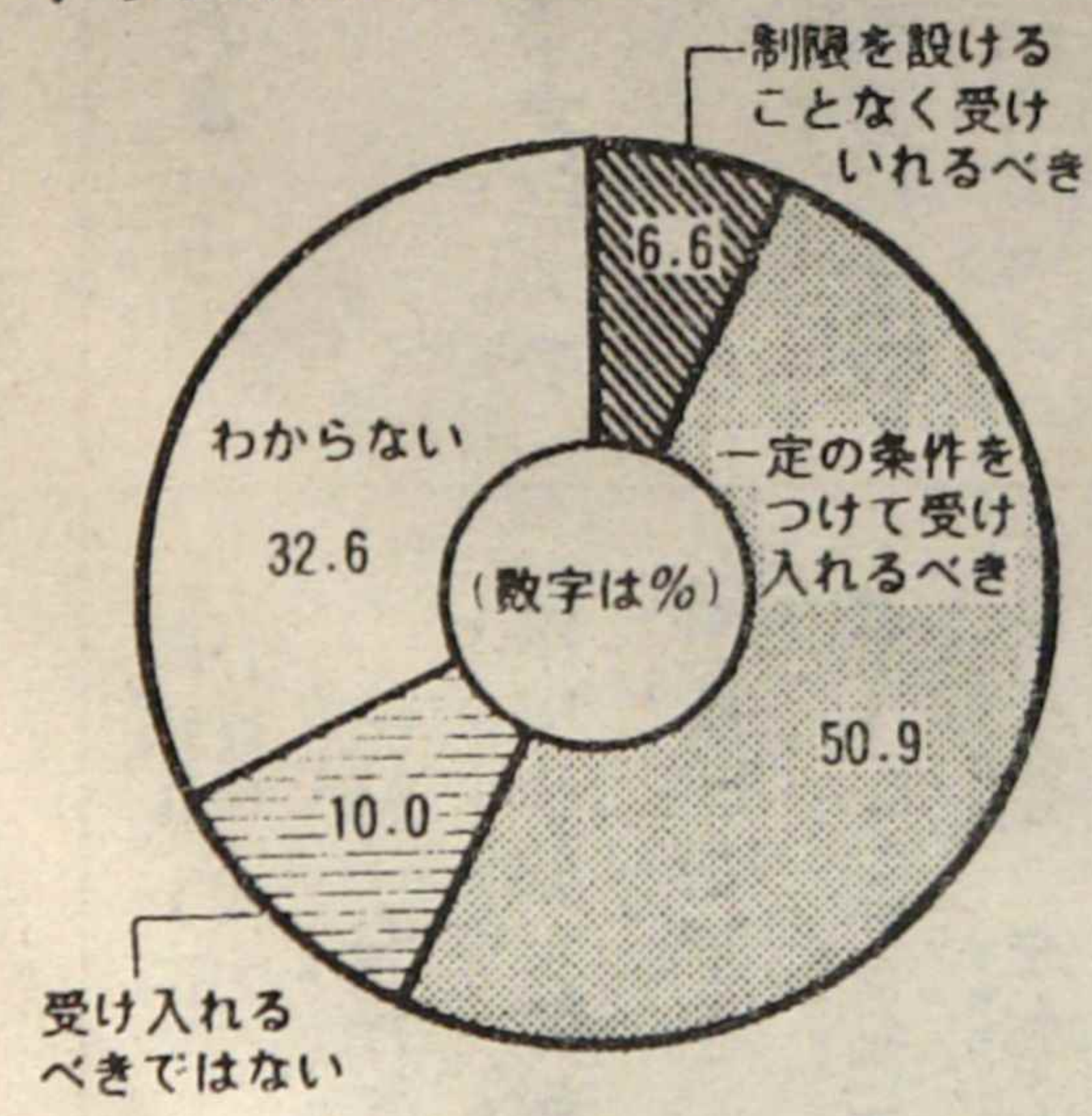
## 外国人単純労働者受け入れ

# 中小企業の6割賛成

88年度白書

通産省・中小企業庁は二十一日、八八年度中小企業白書をまとめた。求人難が中小企業の経営上の最大の課題になってきており、その解決策として中小企業の約六割が外国人の単純労働者受け入れに賛成している。また、円高を契機に中小企業の生き残り策をかけた海外進出が急増し、円高前の八四年に比べ約五倍に達している。中小企業に経営上の課題点をアンケートした調査（八八年一月～二月）によると、問題点は①求人難二四・〇％②売上・受注の停滞一八・四％③人件費など経費の増加一四・一％の順で、人手不足が深刻になっている。年齢別では若年層、職種別では技術者や生産工程従事者の不足を訴える企業が多い。このような求人難の中、実際に外国人労働者を採用している中小企業は一・九％にすぎないものの、一五・八％が「採用していないが必要性を感じる」と回答。外国人の単純労働者の受け入れについて「は無制限で受け入れるべき」と六・六％と「条件付きで受け入れるべき」五〇・九％を合わせると六割近くに達し、「受け入れべきではない」の一〇・〇％を大きく上回った。これら単純労働者受け入れの声に対して白書は「わが国労働市場への影響のほか、産業、社会保障、子弟の教育、治安上の問題などによる影響が大きいことから、対外関係に留意し、慎重に検討する必要がある」と従来の政府見解を踏襲している。

単純労働者受け入れについての中小企業調査結果 <88年12月>



一方、円高のもと企業の海外進出は、大企業だけでなく中小企業にも波及。八八年の中小企業の海外進出は千六百二十五件で、前年（千六百三十三件）の五割増、円高前の八四年（三百十二件）の五倍強。進出先も北米やNIEES（新興工業国・地域）だけでなくASEAN（東南アジア諸国連合）地域や中国にまで広がっている。親企業側も、円高の進行で系列を超えて広い範囲から下請け企業を選択する傾向が強まっており、中小企業が生き残るには技術力や生産管理力の強化が必要と白書は指摘している。

十年いようが、昨日、来たばかりであらうが、同じ単価で働く。どこから来たかも問わな

だが、最近、仲間のなかの一部に、韓国からの出稼ぎを特別に目のカタキにしているもの

が、見るように負うけられる。日本の企業は、世界中に出かけて商品をうり、また現地の労働者を雇って商品をつくる。外国人労働者を雇いたいといふ会社も増えている。これらの事情と自分が釜山に来た事情をよく比べて考えるべきだ。韓国朝鮮人に対する差別意識で、同じ労働者を排除するのは